

京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

1. 国際研究ミーティングの名称

北白川 EFEO サロン: 日本における信仰と「知」のはざま — 中世・近世・近代を中心に —

2. 主宰責任者氏名

マルタン, ノゲラ・ラモス(フランス国立極東学院、京都大学人文科学研究所客員准教授)、鈴木堅弘(京都精華大学)、平岡隆二(京都大学人文科学研究所)

3. 開催日時等およびプログラム(講演者名または報告者名を明記してください)

①日時:2020年9月25日 18:00~19:30

場所:フランス国立極東学院京都支部

演題等:室町時代の密教と現世利益—茶枳尼天曼荼羅をめぐって

講演者または報告者:ガエタン・ラポー(京都大学人文科学研究所白眉特定准教授、EFEO 共同研究員)

②日時:2020年10月16日 18:00~19:30

場所:フランス国立極東学院京都支部

演題等:阿弥陀の秘密空間——隠さざるをえなかった儀礼空間の機能と教義的な背景(近世を中心に)

講演者または報告者:マルクス・リュウシュ(龍谷大学世界仏教文化研究センター博士研究員)

③日時:2020年10月30日 18:00~19:30

場所:フランス国立極東学院京都支部

演題等:湯殿山信仰に登場する身体とモノ

講演者または報告者:アンドレア・カスティリオーニ(名古屋市立大学講師)

④日時:2020年11月27日 18:00~19:30

場所:フランス国立極東学院京都支部

演題等:京坂キリシタン事件の主要人物——入信の動機と宗教活動を中心に

講演者または報告者:宮崎ふみ子(恵泉女学園大学名誉教授)

4. 概要(400字程度)

日本の歴史における「信仰」と「知」の交点に着目し、双方が未分化の時代における「民間習俗の実態」や「民衆の思想観」がどのようなものであったのかという問題を取り上げた。本題における「知」とは、近代学問が成立する以前の医術、占星術、本草学、陰陽道、呪術、修験道、和算、茶道、仏教教理、職工技術、もの語り、詩文、画道など多岐にわたるものである。科学や医学、文学などの近代学問が成立する以前に、これらの「知」の祖型は、いかにして人びとの生活に根ざし、世俗民の生々しい信仰と結びつくなかで、独自の発展をとげてきたのか、その理由や経緯を、14世紀から19世紀の日本における民衆社会の歴史を通じて検討してきた。四回の講演会を開催し、講師の報告をもとに参加者が議論を行うかたちで、当該問題の理解を深めた。

5. 参加者(別紙「参加状況」も記載してください。)

①学外

マルタン、ノゲラ・ラモス(フランス国立極東学院、京都大学人文科学研究所客員准教授)、鈴木堅弘(京都精華大学)、リュウシュ・マルクス(龍谷大学博士研究員)、宮崎ふみ子(恵泉女学園大学名誉教授)、Andrea Castiglioni(名古屋市立大学講師)、Polina Serebriakova(ケンブリッジ大学院生)、タム・チュイ・ジュン(ケンブリッジ大学院生)、Katja Triplett(University of Leipzig(German)教授)、カーター・ケイレブ(九州大学人文科学研究所講師)、詹晏怡(台湾中央研究院歴史語言所ポスドク)、Marta Sanvido(Ca'Foscari University of Venice (Italy) -Adjunct Professor)、ブライアン・ルバート(神奈川大学教授)、スティーブン・トレンソン(早稲田大学准教授)、Silvio VITA(ISEAS 所長)、Didier DAVIN(国立国文学研究資料館)、青原彰子(広島大学科博士課程後期)、久留島元(京都精華大学特別任用講師)、シュタイネック 智恵(チューリッヒ大学客員研究員、チュービンゲン大学院生)、末松 憲子(名古屋大学研究員)、Catherine Ludvik(Stanford Japan center 教授)、丁嘉琪(同济大学(中国)院生)ほか

学内

上島享(文学研究科教授)、メナチェ・アンドレス(文学研究科修士課程)、齋藤珠乃(薬学部一回生)、亀山 隆彦(こころの未来研究センター研究員)

所内

平岡隆二、WITTERN, Christian

②学外

マルタン、ノゲラ・ラモス(フランス国立極東学院、京都大学人文科学研究所客員准教授)、鈴木堅弘(京都精華大学)、宮崎ふみ子(恵泉女学園大学名誉教授)、青原彰子(広島大学科博士課程後期)、三井秀子(Centro Incontri Umani (スイス) 研究員)、Wamae W. Muriuki(University of Nairobi 講師)、スポーレ マーシャ(ジュネーブ大学・東京大学大学院博士課程)、Makiko Tsunoda(Nottingham Trent University 博士課程)、鈴木紗江子(University of British Columbia 博士課程)、桑原泰枝(ノーザンケンタッキー州立大学教授)、Catherine Otachime(University of Colorado Boulder 修士課程)、堤邦彦(京都精華大学教授)、梁潔(東南大学(中国)講師)、エイヴリ・モロー(ブラウン大学博士課程)、詹晏怡(台湾中央研究院歴史語言所ポスドク)、寺田澄江(フランス国立東洋言語文化大学 INALCO 名誉教授)、ヴァネヤン・エリザヴェータ(モスクワ大学院生)、斎藤 喬(南山大学講師)、鈴木 正崇(慶應義塾大学名誉教授)、碧海寿広(武蔵野大学准教授)、渡瀬綾乃(筑波大学院生)、Jamie Hubbard(Numata Professor of Buddhist Studies, Smith College)、Catherine Ludvik(Stanford Japan center 教授)、Silvio VITA(ISEAS 所長)ほか

学内

東 まり子(京都大学文学部の留学生研究生)、上木 正博(事務職)、檜山智美(白眉センター

特定助教)、筈井 俊輔(経済学研究科特定助教)、ガエタン・ラポー(白眉センター特定准教授)、
亀山 隆彦(こころの未来研究センター研究員)

所内

WITTERN, Christian

③学外

マルタン, ノゲラ・ラモス(フランス国立極東学院、京都大学人文科学研究所客員准教授)、鈴木堅弘(京都精華大学)、Jamie Hubbard(Numata Professor of Buddhist Studies, Smith College)、Schmid, Sarah Rebecca(University of Zurich, Switzerland 博士課程)、カーター・ケイレブ(九州大学講師)、Emanuela SALA(SOAS 博士課程)、三井秀子(Centro Incontri Umani (スイス) 研究員)、Alexander Vesey(明治学院大学准教授)、梅沢ふみ子(恵泉女学園大学名誉教授)、詹晏怡(台湾中央研究院歴史語言所ポスドク)、中野智恵子(University of Arizona 講師)、グエンツエ・ミン(名古屋大学文学部三回生)、Yui Suzuki(University of Maryland 教授)、リュウシュ・マルクス(龍谷大学博士研究員)、笹川花(名古屋大学文学部二回生)、坂知尋(龍谷大学リサーチ・アシスタント)、Marta Sanvido(Ca'Foscari University of Venice (Italy) -Adjunct Professor)、モリス・ジョン(駒沢女子大学准教授)、王琛(ブリティッシュコロンビア大学修士課程)、Silvio VITA(ISEAS 所長)、猪飼祥夫(北里大学客員研究員)、大内典(宮城学院女子大学教授)、Claudia Iazzetta(University of Naples "L'Orientale"教授)、Catherine Ludvik(Stanford Japan center 教授) ほか

学内

上木 正博(事務職)、ガエタン・ラポー(白眉センター特定准教授)

所内

WITTERN, Christian

④学外

鈴木 正崇(慶應義塾大学名誉教授)、乙井 遼平(仏教大学大学院生)、平澤 キャロライン(早稲田大学准教授)、白石 恵理(国際日本文化研究センター助教)、大橋 幸泰(早稲田大学教授)、Alexander Vesey(明治学院大学准教授)、Andrea Castiglioni(名古屋市立大学講師)、シュタイネック 智恵(チューリッヒ大学客員研究員、チュービンゲン大学院生)、布施倫英(ヘルシンキ大学講師)、伊藤モラレス杏子(Universidad de Granada (Spain)講師)、Chiara Ghidini(University of Naples L'Orientale (Italy)准教授)、小林亜未(デュッセルドルフ大学助教)、Paola CAVALIERE(大阪大学准教授)、岸本恵実(大阪大学准教授)、ベネディクト・ティモシー(関西学院大学助教)、黄昭淵(韓国国立江原大学教授)、リュウシュ・マルクス(龍谷大学博士研究員)、相良かおる(西南女学院大学准教授)、Silvio VITA(ISEAS 所長)、ペレス・リオボ アン

ドレス（同志社大学助教）、末松 憲子（名古屋大学研究員）、王琛（ブリティッシュコロンビア大学修士課程）、郭南燕（東京大学特任教授）、丁嘉琪（同济大学（中国）院生）ほか

学内

上木 正博（事務職）、柳一菲（文学研究科修士）、ガエタン・ラポー（白眉センター特定准教授）、メナチェ・アンドレス（文学研究科修士課程）

所内

平岡隆二

6.助成金の使途等

国内旅費に使用

7.その他(成果や今後の展開等、自由に記載してください)

別紙

参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生	総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生
学内(法人内)	7	14 (3)	1 (0)	()	()	2 (0)	25 (3)	4 (0)	()	()	3 (0)
国立大学	5	13 (7)	4 (3)	()	()	3 (3)	16 (9)	5 (3)	()	()	4 (4)
公立大学	1	1 (0)	1 (0)	()	()	()	3 (0)	3 (0)	()	()	()
私立大学	18	22 (5)	5 (2)	()	()	()	33 (8)	9 (2)	()	()	()
大学共同利用機関法人	2	2 (1)	()	()	()	()	2 (1)	()	()	()	()
独立行政法人等公的研究機関		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
民間機関		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
外国機関	30	34 (26)	20 (15)	()	()	14 (11)	50 (33)	34 (22)	()	()	16 (11)
その他		26 (11)	()	()	()	()	42 (18)	()	()	()	()
学外 計	56	64 (24)	30 (20)			17 (14)					
計	63	78 (27)	31 (20)	()	()	19 (14)	171 (72)	55 (27)	()	()	23 (15)

【その他の参加状況】

※本務所属が海外の研究機関である研究者

※()内には、女性数を記載

※受入機関、受入人数、延べ人数を区分に応じて記入してください。

※外国人、若手研究者(40歳未満)、若手研究者(35歳以下)、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延べ人数に対しての内数を記入してください。

※受入人数、延べ人数については上段に総数を下段に()で女性の内数を記入してください。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入してください。

※【その他の参加状況】には「その他」区分に計上した、具体的な所属等を記載

※受入人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出してください

国際研究ミーティングに参加者2人が3回参加した:受入人数2人、延べ人数6人